

キャラクター名  
佐々木 優太 (ササキ ユウタ)

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ		ワークス	FHマーセナリー	カヴァー	高校生
	パロール					
オプション			年齢	15歳	性別	男
覚醒	死	衝動	解放	初期侵食率	40 %	
出自	安定した家庭	経験	小さな名誉	邂逅	保持	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	3		0			3	行動値	-1
感覚	1		0			1	(非装備時)	4
精神	2		0			2	戦闘移動	9
社会	2	1	0			3	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉		1
回避			知覚			意志	1		調達		3
運転:			芸術:			知識:			情報:	FH	1
運転:			芸術:			知識:			情報:	裏社会	3
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ガードシールド	白兵	3r	6	1		ガード値+5.1ラウンド1回

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
FHバトルアーマー		15	-5	-5	エフェクトによるダメージ-5

所持品	
ウェポンケース	
思い出の一品	

合計装甲: 15    合計回避: -5

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス: 装着者P		N		
守護対象: 肥後深貴P	庇護	N 不安		
地球: アース	P 好奇心	N 不自信		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 12    残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
竜鱗	3	3	リアクション	至近	自身	自動成功	-	
効果: 装甲値+[Lv×10]								
衝撃相殺	2	-	常時	至近	自身	自動成功	リミット	
効果: ダメージ-[Lv×5]軽減。基礎浸食率+4								
軍神の守り	1	2	オート	至近	自身	自動成功	-	
効果: カバーリングを行える。1メインプロセスに1回								
孤独の魔眼	1	4	オート	視界	効果参照	自動成功	-	
効果: 自身を対象に含む範囲攻撃の対象を自身のみとする。								
グラビティガード	3	3	オート	至近	自身	自動成功	-	
効果: ガード値+(Lv)D								
魔王の外套	3	5	マイナー	至近	自身	自動成功	120% 解放	
効果: [LV×5+5]D、シーン中自身が受けるダメージを常に軽減する								
マルチアクション	1	3	マイナー	至近	自身	自動成功	-	
効果: マイナーでエフェクト以外の行動をもう一度行える								
時間凍結	1							
効果:								
ディメンジョンゲート	★							
効果: どこでもドア								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

【設定】  
 僕は家が古武術をやっていること以外特におかしいところはない女装少年だよ。  
 僕の家の武術は守ることに特化している武術でね。昔からいろいろ叩き込まれていたけど、一番ひどかったのは「女の子の方が街中で襲われる」という理由だけで僕に女装を強制させられたことだね。まあ、今は気に入ってるからいいんだけどさ  
 まあ、僕がいつも通り日常を送っていたある日のことなんだけど。女の子が剣を持った奴に襲われてるところを目撃したんだ。剣の受け流しくらいならって思って飛び込んだのはいいんだけど・・・その剣は火を纏っていたね。あまりの熱で受け流せずには僕は一刀両断されちゃったんだ。最期に見えたのは助けた女の子が絶望に至っていた顔だった。自分には何もできないんだ・・・そう思った時、ある声が聞こえてきたんだ。  
 ？？「護れ・・・君の傍にいるものを。守れ・・・君の掲げた誓いを」  
 優太「・・・誰？」  
 アース「私は君が立っていた大地その物。君たち人間が地球と呼ぶ者」  
 優太「星霊ってやつなのかな？地球が死んだ僕に何の用？」  
 アース「私は確かめたんだ。今の私が間違っていないことを」  
 アース「人を信じ、護ることが間違っていないことを確かめたんだ」  
 アース「だが、私は何もできない。だから君を見て確かめたい。私によく似ている君を見て」  
 優太「でも、僕死んだんだよ？」  
 アース「大丈夫。また立ち上がる力を。全てを護る力を君に与えよう」  
 優太「う～ん・・・なら、希望に添えるかわからないけど頑張ってみよう」  
 そうして、僕は力を手に入れ、現実に戻った。そしたら、また女の子がピンチだった。だから、また庇う。今度はこの力で  
 与えられた力を右手に纏い、今度はその剣を真正面から受け止めた。女の子も襲撃者も驚いていたけど・・・関係ない。かかってこい。お前の凶刃は僕が何度だって受け止めてやる。絶え間ない攻防の末襲撃者はジャームとなり、後に駆けつけた女の子の仲間の手によって討たれた。守り切った・・・そう思って立ち去ろうとした時、その女の子・・・肥後深貴は僕に懇願した  
 肥後深貴「どうか、私達を護ってください。もう誰も失いたくない・・・死なせたくない」